◎実習報告・小学校◎

令和３年度　小学校教育実習報告

小学校教育実習担当　初等教育科　古川　元視・大田　亜紀

令和３年度の小学校教育実習は、別府市内の小学校において１年生観察実習として５日間，２年生本実習として３週間実施した。別府市内の小学校の内諾業務については、別府市教育委員会への承認及び各小学校の承認を得ている。

本実習指導に関しては、現場での実習を念頭に置き、実習担当者から、現場での具体的な指導場面を中心とした指導を行った。

１．学生数　　初等教育科１年　36名
　　初等教育科２年　48名

２．実習先

（１）観察実習　別府市内小学校　15校
（境川小、南立石小、亀川小、朝日小、石垣小、東山小、上人小、鶴見小、春木川小、緑丘小、大平山小、南小、別府中央小、山の手小、明星小）

（２）教育実習　別府市内小学校　15校
（境川小、南立石小、亀川小、朝日小、石垣小、東山小、上人小、鶴見小、春木川小、緑丘小、大平山小、南小、別府中央小、山の手小、明星小）

３．実習期間

（１）観察実習　令和３年　９月２日～８日（５日間）

（２）教育実習　令和３年　10月４日～22日（３週間）

４．教育実習の意義・目的

これまで大学で学んできたことを、小学校の教育現場で経験豊かな先生方の指導のもとに、児童と直に接する具体的な活動を通して理解するとともに、実践的な指導力の基礎を身に付けるものである。同時に、児童や先生方との触れ合いの中で、教育の営みを具体的に学び、そこで得た課題を大学で研究することにより、教育者としての識見や教育観を養うことを意義および目的としている。

５．教育実習校の様子

小学校実習担当者が各実習校を訪問し（教育実習のみ、観察実習はなし）、学校長に実習生の様子を聞き、さらに実習生本人からも取り組みや実習の現状について聞き取りをした。また、訪問時には時間の許す限りにおいて、実習生の研究授業、査定授業を参観するようにしている。

６．教育実習を担当して

新型コロナウィルス感染症対策を十分に行い、安心安全な実施ができるように各実習担当と連携をし合い進めていくことができた。実習前の全員対象の抗原検査は、実習校から対応への感謝の声を頂いている。

学生にとっては、実習を通して得た学びは大変大きく、学内だけでは十分に理解できない現場体験の貴重さが実習後の振り返りに表れていた。実習での経験をもとに、未来の自分を思い描き今後の進路についても深く考えることができていた。

観察実習から得たこと

初等教育科１年　濱﨑　千翔

私は，観察実習を振り返ってこれまでの気持ちよりも大きくなったことは，子どもたちに学習だけでなく人間関係のことも教えていける教員になりたいという思いです。実習の中で子どもたちがわからないことを聞いてきて，教えると，「わかった。」と言って，問題を解いている姿を何度も見ました。子どもたちにわかってもらえた際のうれしさや，やりがいを感じ，もっと学習に取り組んでもらうためにはどうしたらいいのかを考えていかないといけないと思いました。また，自分が教員になるにあたってもっと大学で学びを深め，教員になった際に活かしていけるように頑張ろうと思いました。

観察実習の中で子どもたちに指示を出したり，注意をする際の言葉の選び方を間違えなかったりしないといけないと思いました。観察実習生という立場で子どもたちにどう言葉をかけたらよいのかがわからず，注意するべきところできちんと注意ができなかったり，注意が不十分で，子どもたちが注意を聞いてくれなかったりしたことがあり，結果，実習先の先生の注意で収まりました。きつく言うことだけが伝える際に良いとは限らないし，優しく言うことで子どもたちに聞いてもらえるとも限らないのでその場に応じた言葉かけをしないといけないと思いました。自分の言葉を子どもたちにきちんと伝えることができないと学習を教えていく中でも，指示や注意をする際にも伝えることはできません。自分の言葉選びを今のうちからきちんとする習慣を付けていきます。また，現在小学校の現場では，ICT機器を使った授業や英語等の外国語授業が必須のことであり，子どもたちの主体性を伸ばすこと，思考力・判断力・表現力を伸ばすこと，学びに向かう力を付けることが教員として求められていることであるので，教員として子どもたちのために何ができるのかを常に考え続けること，教えていくための技能を身に付けることをこれから頑張って行きたいと思います。これから，実習で学んだことを活かして大学での学びや来年実施される本実習で力を発揮できるようにしたいと思いました。自分の考えだけでなく他の人から得られることも多くあるので，意見交換なども大切にして行きたいと思います。

観察実習で学んだこと

初等教育科１年　佐藤　秋那

９月３日から８日の観察実習は，鶴見小学校の２年２組で実施させていただきました。

今回の観察実習では声のかけ方が大事だと学ぶことができました。子どもたちのやる気を出すためにどんな声かけをすればいいのか，指示としてすべてを提示して声をかけるのか，問いかけるように子どもたちに考えてもらうような声掛けをするのかと場面によって声のかけ方を変えることが大切だなと実感しました。実際に，「体操服に着替えようか。」と声をかけてもなかなか着替えを終わらせることができなかった子どもに「何分で着替えられるかな。」「時計の針が５の数字のところにくるまでに着替え終わるかな。」など，具体的にゲームのような面白さを加えて声をかけることで素早く着替えることができました。他にも，休みに時間の終わりに「次の授業何だったかな。」「準備するものあったかな。」と複数人でいるグループに声をかけ，それぞれが口にすることで思い出し，準備を終わらせることができたこともありました。

子どもたちとの接し方が実習中の課題ではないかと感じます。クラスの中でもたくさん話す

ことのできた子どもと，あまり会話のキャッチボールをすることができなかった子どもがいました。子どもからのアクションを待つことが多く，自分から声をかけることがあまりできなかったことが大きな原因だと思います。人見知りだから，コミュニケーションを取ることが苦手だからということは理由にはならないと思うので改善していくべき点だと感じました。

また，私の認識と子どもの解釈の間に大きな差があることを実感しました。自分の思いを伝えたと思ってましたが違う意図で伝わっていた，伝えたつもりになっていたということが多くありました。知っている言葉の量の違いでこんなにも伝えることが難しくなるんだと感じた瞬間でした。どんな言葉選びをすればより伝わりやすくなるのか，普段使っている言葉を言い換えるとどんな言葉になるのかという思考も大切だと感じると同時に，自分の語彙力を情けなく思いました。

実習を通して，自分に合っているなと感じた方法を見つけることができました。他にも，もっと工夫しなければいけないな，考えなければいけないなと感じる場面も多々ありました。来年の実習のために，発見した課題をどのように克服するか，そのためにどのような努力をすればよいのか今回の反省や講義で学んだことを踏まえて考えていきたいです。

信念ある教育

初等教育科２年　古賀　大基

私が実習を終えて学んだことは，主に３つあります。

１つ目は，積極的に子どもたちと接することの大切さです。１年前の観察実習の頃の私は，私の言葉や行動が，子どもたちに悪い影響を与えてしまわないかと委縮していました。その結果，子どもたちと深い関わりを持つことができませんでした。その経験から，今回の小学校実習では，積極的に子どもたちと関わっていこうと心に決めていました。子どもたちとの深い関わりの中で，前回の観察実習では気が付くことの出来なかった，子どもたちの考えや特性，成長などを深く感じることができました。授業中の子どもたちの課題に対する考えや，その変化について，知ることができ，授業づくりの上でも本当に大切なことなのだと感じました。また，観察実習の時にはあまり話してくれなかった子どもに積極的に話しかけることで，コミュニケーションを取ることができました。子どもたちと信頼関係を築く上でも日々の挨拶やコミュニケーションを取ることが重要であると実感しました。

２つ目は，教員としての確固たる自信を持って，指導を行うことです。担当している学級で，教室から抜け出してしまう子どもがいました。私は，どういった指導が正しいのか分からず，ただ，一緒についていき「教室に戻ろう。」，「今やることは何だろう。」と声をかけることしかできないでいました。そんな折に，教頭先生から「正しい指導方法は誰にも分からないから，自信を持って指導をして良いのですよ。」とご助言を頂きました。教頭先生のご助言から，私は自信を持って子どもたちと接し，指導をしていくことができました。教員が不安そうに子どもと接していれば，子どもたちにもその不安は伝わってしまいます。また，不安そうに指導をしてしまえば，子どもたちは教員に対して不信感を持ってしまい，信頼関係を築くのも難しくなってしまいます。そうならないためにも，自信を持って子どもたちと接することや指導をすることは，本当に重要なことであると学びを深めることができました。

３つ目は，信念を持って教育に携わることで

す。教育実習中に諸先生方の授業や学級経営，子どもたちとの関わりを観察している中で，先生方の子どもたちにどう育っていってほしいかの願いを感じることができました。研究授業では，先生方の指導案を拝見させてもらい，先生方の考えやねらいを深く読み取ることができました。様々な学級の様子や，授業を観察させていただき，先生方の教育に対する熱意や信念がそれぞれの先生にしっかりとあることを感じました。学級経営をしていく上で，学級の芯となる，教員が信念を持つことやそれを貫き通していくことの大切さを深く学ぶことができました。

以上で述べたことが実習を終えて学んだことです。本当にたくさんの学びや，気づきを得ることのできる実習でした。このような経験を与えてくれた，実習先の先生方や子どもたちには本当に感謝しています。教員生活で，この実習で学んだ経験を活かしていくためにも，しっかりとこれからも教育に関して学びを深めていきたいと考えています。また，自分の教育に対する信念をしっかりと見つめなおしていきたいです。

目指すべき教師像と授業の中での課題

初等教育科２年　間　　嵐士

私は今回の境川小学校での教育実習で教師になるにあたっての自覚と学びを，貴重な経験から得ることができました。15日間という短い期間でしたが，何より学びやすい環境を作ってくださった先生方に感謝したいです。

私が担当した３年１組は他のクラスとは違い，児童の主体性に驚かされてばかりでした。何事にも自分から動いて行動するという主軸ができていて，自分の中でもこのようなクラスを作りたいなと思えるほどでした。私はどのようにこのクラスを経営したのか不思議に思い，担任の松丸先生に聞いてみました。すると先生は「始業式から３日間の重要な時期にこれは守るという規則を作った。」とおっしゃっていました。始めから規則を作ることで児童がこれをやったら怒られる，これは怒られないという線引きができて，クラスのルールが作りやすくなるということです。私はそのほかにも松丸先生の指導観などを毎日質問したり，話を聞いたりする中で知り，このような先生になりたいなと思うようになりました。とくに印象に残っている先生の考え方として，「先生がすべてやってはいけない」という考え方です。掃除時間では掃除場所を決めるところから掃除の仕方まで，すべて児童が自分でやっていました。授業の仕方も先生が一方的に話すのではなく，児童と一緒に授業を進めていくことを，当たり前かもしれませんが先生は大事だと教えてくれました。

私は今回の教育実習で授業を何回かさせていただきました。その中で一番にあがってきた自分の課題は，児童との交流がなしに一方的に教えてしまうということです。特に最初の授業ではその部分が多く，先生からも塾の授業みたいと言われてしまいました。私自身もこれまで模擬授業などをするときに，児童と一緒に課題やまとめを考えたり，交流することの大切さを理解したりしていたので，このままではよくないなと感じ，改善するために意識しました。査定授業の際には児童と一緒に授業を進めることを意識し，結果，先生からもお褒めの言葉をいただきました。自分の癖や課題を理解し，振り返り改善するという一連の流れが今回の教育実習の中でできたのは，自分でも成長できた部分だと思います。しかし，このほかにも間違えた児童への対応がうまくできなかったり，間違えたことを教えてしまったりと，課題はまだまだあります。これからの教育現場などで改善できる

よう精進していきたいです。充実した期間のなかで，たくさんのことを学ばせていただき，理想の教師像も明確になりました。

実習が始まる前に，前回の観察実習のように体験するだけでなく，たくさんの経験をして教師としての自分を明確化したいという課題がありました。この課題が達成できたのは，境川小学校の先生方などからのご指導ご支援があったからだと思っています。これから教師として，今回あがった課題や学んだことを活かしていきたいです。また，自分としても今回の実習では主体的に動けたと思います。この姿勢をこれからも続けながら，勉学に励んでいきたいです。前回の観察実習よりもさらに学びの深い15日間でした。